

日本とつながりの深い国々

氏名：堀口 拓也

学校名：札幌市立西宮の沢小学校

担当教科：全教科

実践教科：社会科

時間数：9時間

対象学年：6年生

人数：28人

学習領域

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 関連するSDG s |
|-----------|------|------|-------|-----|------------------|
| A 多文化社会 | 文化理解 | 文化交流 | 多文化共生 | | 10. 人や国の不平等をなくそう |
| B グローバル社会 | 相互依存 | 情報化 | | | 14. 海の豊かさを守ろう |
| C 地球的課題 | 人 権 | 環 境 | 平 和 | 開 発 | 15. 陸の豊かさを守ろう |
| D 未来への選択 | 歴史認識 | 市民意識 | 社会参加 | | |

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：世界とのつながりを感じよう

小学校の国際理解教育の中で、発達段階を踏まえ一番大切なのは、子どもたちに世界を身近なものとして捉えさせることだと考える。日本と外国は、実はたくさんの場面で繋がっていること。世界にも自分たちと同じように生活している小学生がいること。外国の環境問題に、日本が関わっていること。様々な角度から世界を自分事として捉え、自分と地球の距離を近づけ、切実な問題意識をもって問題を解決しようとする姿勢を育めるような単元構成を考えた。

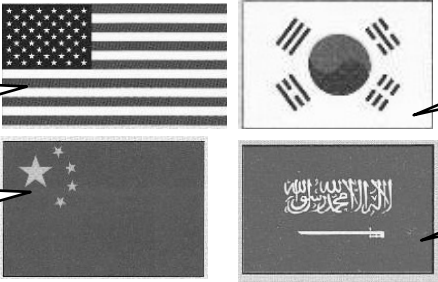


| | | |
|---------------------|--------------|--|
| 【2】 単元の評価 規準例 | (ア) 関心・意欲・態度 | 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 |
| | (イ) 思考・判断・表現 | 文化や習慣などを比較して、異なる文化や習慣を理解しあうことが大切であることについて考え、適切に表現している。 |
| | (ウ) 技能 | 地図や地球儀、各種の基礎的資料を活用して、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子について必要な情報を集め読み取っている。 |
| | (エ) 知識・理解 | 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を理解している。 |





| | |
|----------------|---|
| 【3】 単元設定の理由 | <p>本校児童は、外国への興味関心が非常に薄い。学校に海外国籍の児童がいないことや、地域でも外国人に出会う機会が少ないことも、その原因だろう。外国のことなんて自分たちには関係ない。そう感じている児童がほとんどだと思う。</p> <p>しかし、日本社会には多くの外国人が生活しており、子どもたちが大人になるころには、今以上にグローバル化が進んだ世の中が待っているであろう。そんな子どもたちにとって、海外を身近に感じることは、非常に意味のあることだと思う。</p> <p>マレーシアは、歴史的に観ても日本とのつながりが深い国である。今回は子どもたちの生活にかかわりの深いパーム油から単元がスタートし、マレーシアの小学生と自分とを比較したり、日本と関わりのあるオイルパーム農園の環境問題について考えていったりする。このように、単元が自分の身の回りから世界へつながりをもって進むように、現地で自分が見たり聴いたりした教材を様々な場面でアクティビティに取り込んだ。</p> <p>「マレーシアを学んだから、マレーシアのことは分かった。」で単元が終わってしまうような授業では、意味がない。本単元を学習し終わった子どもたちが、これからの生活の中で、海外あるいは自分の知らない世界に対して少しでも目を向けられるような行動力を身に付けてくれることを願いながら、単元を構成した。</p> |
| ✓ 児童/生徒観 | |
| ✓ 教材観 | |
| ✓ 指導観 | |


【4】展開計画（全7時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。

※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。

| 時 | テーマ・ねらい | 活動・内容 | 使用教材 |
|-------------|---|---|--|
| 1 2 3 | 日本とかかわりの深い国々 アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国、サウジアラビアの4か国を例にとり、日本との関わりを調べていく。 | ○日常生活の中から、自分たちのしている情報をみんなで共有する。 ○興味を持った国について、インターネットや本、家族へのインタビューなどを通してまとめる。  | ●社会科6年下の教科書 うちは冷蔵庫に必ずキムチがある！ 確か石油は、ここから輸入してたはず...？ |
| | メジャーリーグで日本人が活躍してるよね！ 私の着ている服は、中国製のものが多い！ | 日本で暮らす自分たちと世界には、もっとつながりがありそうだ！ | |
| 4 | 日本の中にある海外 身の回りの外国から入ってきたものの多さに気付かせる。特にマレーシアとのつながりを知る。 | ○身近な商品の原材料に注目させ、グループ分けゲームをしていくことで、パーム油と自分の生活との関わりに気付く。  | ●マレーシア産パーム油、もしくは天然ゴムを使った子どもに親しみのある商品 ●現地の農園の写真 ●輸入量のグラフ |
| | | 全部知っている！ ヤシの木！温かい国かな？ パーム油？マレーシア？ 日本とつながりのあるマレーシア。もっと知りたい！ マレーシアという国を、もっと詳しく知りたいな！ | |
| 5 | マレーシアってどんな国 日本と比較しながら、現地の写真が何を表しているか考え、答え合わせをしていくことで、マレーシアの文化に触れながら、日本とのつながりをさらに深めていく。 | ○フォトクイズで、マレーシアと日本を比べながら、マレーシアについて理解を深めていく。  | ●現地の写真（首都や民族衣装、サンデーマーケット、ボルネオ象の標本など） ●民族舞踊の映像 |
| | | マレーシアの民族衣装！ 近代的なタワー！ トヨタの車だ！ マレーシアの小学校！自分たちとは何が違うの？ マレーシアの小学校は、どんな所なのかな？ | |

| | | |
|--|--|--|
| <p>6 本時</p> <p>マレーシアの小学校</p> <p>日本にいる自分たちと、マレーシアの小学生の生活や学校施設を比べ、共通点や相違点について理解していく。</p> | <p>○「日本 or マレーシア」カードパズルを班で対話しながら分類していく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">給食後に授業</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">女の子がスカーフ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">格好は自由</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">学校は12時まで</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">委員会がある</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">毎朝国歌を歌う</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">スキー学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">お祈りの時間</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">日本! </div> <div style="text-align: center;">マレーシア! </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">教室の様子を比べてみよう！</div> <p>○共通点や相違点を見付けることで、つながりを深めていく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">手を挙げるのは同じ！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">国旗たくさん！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">先生がいる！</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">国が違っても、同じように子どもたちが教室に集まって学んでいる！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">マレーシアの子どもに聞いてみたいことを考えよう！</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">どの勉強が好き？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">将来の夢は？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">放課後は何して遊んでいる？</div> </div> <p>○質問を書いて実際に現地に送ることで、現地の小学生との関係を築く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">遠くに住んでいる人ともつながることはできる！ 返事が来るの、楽しみだな！</div> | <ul style="list-style-type: none"> ●コタキナバル小学校の写真・映像 ●コタキナバル小学校の子どもたちをお願いしたアンケート ●JV 山田のインタビュー |
| <p>7</p> <p>マレーシアで働く日本人</p> <p>JICA ボランティアが、どのような使命感をもって現地で働いているかを学ぶことで、外国で働く日本人の気持ちに触れる。</p> | <p>○小学校やサバ州公園局で働く JICA 隊員の写真やインタビュー映像から、どのような意気込みや願いをもって外国で働いているのかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">自然保護をしたい！でも村人を追い出すことはできない…。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">毎日川遊び！自分たちのふるさとで、笑顔で生活したい！</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>JICAの思い！</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>村人の生活！</p> </div> </div> <p>○ホームステイの受け入れが収入につながるなど、JV 永岡さんが実際に行っている活動を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">マレーシアの環境問題は、どのようなものがあるの？</div> | <ul style="list-style-type: none"> ●JV 永岡さんのインタビュー映像 ●自然保護区の中で暮らす村人の写真 |

| | | |
|--|---|--|
| <p>8</p> <p>オイルパーム産業と環境問題</p> <p>過去の森林伐採は、主に日本への木材輸出のために行われ、その代わりにオイルパーム産業が盛んになったという事実から、世界の環境保全について考えるきっかけを見出す。</p> | <p>○オイルパームに関する様々な立場の人々になったつもりで簡単なロールプレイを行い、問題点の落としどころとなる解決策を探っていく。</p> <p>現地の農園で働く人 自分たちの生活のためにたくさんパーム油を生産します。パームの実を食べてしまうボルネオゾウは、当然退治します。日本のみなさん、助かっていますよね？</p> <p>自然保護団体 森林を伐採するのは許しません。動物たちの住処を奪う権利は、人間にもないはずですよ。</p> <p>日本の企業 うちの会社はパーム油をたくさん使うので、これからもたくさん作ってほしい！</p> <p>様々な立場に立って、落としどころを見つけるのは大変…。でも、逃げちゃダメだ！</p> | <p>●プランテーション農園写真</p> <p>●ボルネオゾウ殺戮の新聞記事</p> |
| <p>9</p> <p>SDGs</p> <p>国際社会が抱える問題に気付き、解決に向けての参画意識をもつ。</p> | <p>○国際社会とつながりがある、日本が抱える問題点を振り返る。</p> <p>○国際社会の諸問題に対するSDGsを知り、それは世界の人々のどんな願いから生まれたものかを話し合う。</p>  <p>日本だけじゃない。世界にもたくさん問題がある。</p> <p>日本はたくさんの国と関わりがあり、そこにはたくさんの問題が。これからは、世界にも目を向けて生活していこう！</p> | <p>●SDGs 小学生向け資料</p> |

【5】本時の展開

| 過程時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 (支援) | 資料 (教材) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--------------------------------------|-----------------------------|-------|--|---------|-------|----------|---------|--------|--------|-----------|-----------|---------|---------|----------|---------|--|---|
| 導入 (5分) | <p>○マレーシアに関するフォトクイズに挑戦。</p>  <p>民族衣装？民族楽器？</p> <p>イスラム教？先生？</p> | <p>・アイスブレイクだが、本時の現地小学校に関する写真を扱う。</p> | <p>・現地で撮影した写真 (民族衣装・食事)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 展開① (10分) | <p>○担任が出た現地のニュース映像を見せる</p> <p>○「日本の小学校 or マレーシアの小学校」文章の書かれたカードパズルを班で対話しながら分類していく。</p> <table border="1" data-bbox="255 1724 877 2027"> <tr> <th colspan="2">日本</th> <th colspan="2">マレーシア</th> </tr> <tr> <td>8:15 登校</td> <td>好きな服装</td> <td>女の子 スカーフ</td> <td>毎朝 国歌歌う</td> </tr> <tr> <td>給食後 授業</td> <td>委員会 活動</td> <td>教室出たら すぐ外</td> <td>お祈りの 時間あり</td> </tr> <tr> <td>習字 授業ある</td> <td>スキーを する</td> <td>12時 学校終了</td> <td>民族衣装 着る</td> </tr> </table> | 日本 | | マレーシア | | 8:15 登校 | 好きな服装 | 女の子 スカーフ | 毎朝 国歌歌う | 給食後 授業 | 委員会 活動 | 教室出たら すぐ外 | お祈りの 時間あり | 習字 授業ある | スキーを する | 12時 学校終了 | 民族衣装 着る | <p>・簡単な情報を分類していく上で、それぞれの活動の意味も考えていけるように声掛けをする。</p> <p>・宗教や生活習慣を取り扱うときに、「マレーシアに暮らす人は絶対こうだ！」という固定観念を植え付けないように、十分に配慮する。</p> | <p>・ニュース映像</p> <p>・分類ゲームとフォトパズル (アクティビティ)</p> |
| 日本 | | マレーシア | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8:15 登校 | 好きな服装 | 女の子 スカーフ | 毎朝 国歌歌う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 給食後 授業 | 委員会 活動 | 教室出たら すぐ外 | お祈りの 時間あり | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 習字 授業ある | スキーを する | 12時 学校終了 | 民族衣装 着る | | | | | | | | | | | | | | | | |

裏返してフォトパズルを完成!

展開②
(20分)

日本とマレーシアの教室の様子をみましょう!

○共通点や相違点を見つけることで、自分たちとのつながりに気付いていく。



手を挙げるのは同じだね!

国旗を大事にしているのかな?

マレーシアも、先生がいるね!

国が違って、同じように子どもたちが教室に集まって学んでいるんだね!

展開③
(5分)

もっと知りたいけど、写真からわかることには限界が…

マレーシアの子どもに聞いてみたいことを考えよう!

○マレーシアの小学生がどんな毎日を過ごしているのか、心の内面迫る質問を考える。

僕は体育が好きだけど、マレーシアの子どもの好きな勉強は何かな?

私お母さんが大好きだけど、家族のことをどう思っているのかな?

まとめ

○次時までに手紙に書く内容を整理しておくために、宿題としてワークシートにまとめさせる。

・どちらが優れているという話にならないように、違いに驚きながら、発見を楽しめるような声掛けをしていく。

・「国が違って同じ子ども」という異文化共生の気持ちを大切に扱う。

・写真

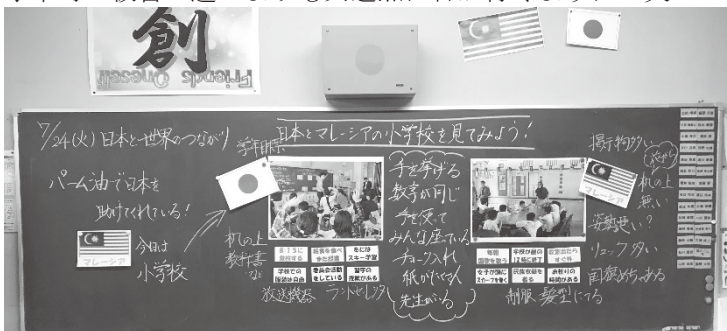
現地小学校の教室
本校小学校の教室

・ただ質問を考えるだけでなく、「心の中=気持ち」を知ることができる質問を考えられるよう関わる。

・投げかけで終わるのではなく「自分はこうだけど、あなたは?」という観点で質問を考えさせる。

【授業実践の様子】

↓本時の板書 違いよりも共通点に目が行くように工夫



↑「話したい!」が生まれた交流場面

↓グループで話し合いながらカードを分類



↑現地で撮ってきた映像に見入る子どもたち



【6】本時の振り返り

前時までは、日本とマレーシアとの比較をまだ実感をもって行うことができていなかった。パーム油が日本を助けてくれているという事実だけでは、まだマレーシアの理解は不十分である。そこで、自分たちの小学校とマレーシアの小学校の生活を見比べることで『マレーシア』を子どもたちの心の内面に潜り込ませることが、本時の最大の目的だった。

楽しく授業を展開していきたいという思いから、今回は分類ゲームとフォトパズルの2つのアクティビティを使った。子どもたちはまず12枚のカードに書かれた文章を読んで、日本の小学校のことなのか、それともマレーシアの小学校のことを言っているのかを考え、2つのグループに分けていく。もちろん、楽しいだけでは意味がない。分けた理由をグループで対話しながら進めていった。面白かったのは、教師の指示がなくても自然と分類が始まったこと。これは、単元の中で「日本と〇〇を比べてみよう！」といった流れを大切にしてきた成果だったと思う。

正確に分けられた場合は、カードをひっくり返すと、日本とマレーシアの教室での授業風景の写真がそれぞれ現れる。本時はここからが本番。アクティビティは、あくまで手段として使うもの。それが目的になってしまうと、全く意味がない私は考えている。目の前にある二枚の写真を見た瞬間に、子どもたちは違いや共通点を勝手に探し出した。自力解決の後、ペア交流、そして全体交流。発表したい子が多すぎて、全員の意見を聞くことができなかつたことが心残りであるが、それくらい子どもたちはマレーシアにのめり込み、異文化を理解しようと意欲的だった。

本時で意識したもう一つの仕掛けは、日本で暮らす子どもたち自身の写真をたくさん授業の中で使ったことだ。現地の写真ばかり見せても、子どもたちにとってはなかなか実感がわかないだろう。今までの学校活動で自分たち経験したことを写真で回想しながらマレーシアの小学校生活を見ていくことによって、より自分事として子どもたちは学習に参加できたように思う。マレーシアの小学校を通して自分たちの生活や文化のよさにも改めて気づくことができたのではないだろうか。

全体交流後、写真から見えてくることに限界があることに気付いた子どもたちが最初に言った言葉は「マレーシアに行きたい！」だった。本時が本時で終わってしまわないように組んできた展開だったので、子どもたちの反応は素直に嬉しかった。その後、もし直接聞きたいことがあれば現地に質問を届けられることを教えると、子どもたちは喜んで聞きたいことを考えていた。

一時間の授業の中に、これでもかという情報量を詰め込みすぎたため、交流場面の時間が少し短くなってしまったのが反省点。しかし、あそこまで活発な意見交流が行われるとは思っていなかったので、「みんなと話し合いたい！」と思えるような学習になったことには、とても手応えを感じることができた。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

何を教えても、子どもたちはとても前のめりになって話を聞いていた。そして、友達とよく話しながら学習を進めていたように思う。日々の授業でも対話を大切にしているが、今回の教材はマレーシア。子どもたちにとっては、関わりの薄い遠い場所。しかし今回、担任の私が実際に現地へ足を運び、五感で感じたことを子どもたちに伝えることによって、きっと何かしらのメッセージを一人一人が受け取ってくれたと思う。授業後の振り返りでは、心に残った視点が本当に様々だった。ただ、共通して子どもたちが書いていたのは「もっと知りたい」という内容だった。その探究心が、未来への行動力につながっていくと思う。小さいかもしれないが、大きな一歩を子どもたちの反応から感じ取ることができた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

まず、子どもたちはマレーシアという国を知らず、当然イメージも全くなかった。そのような状況でスタートした単元だったので、こちら側の話すことは比較的スムーズに子どもたちの心に入っていったように思う。それ故に、私のマレーシアという国の解釈が、ストレートに子どもたちに入っていったことが非常に恐ろしかった。

しかし、その気持ちとは裏腹に、子どもたちはどんな事実も受け入れながら異文化を理解していたように思う。頭にスカーフを巻いたイスラム教徒の女性の写真を見て、「日本にいても普通じゃない？いろんなファッションもあるし！」と言っていた子には、非常に感心させられた。子どもたちは大人が思っている以上に、寛容な心をもっているのかもしれない。もともと意識していない所がスタートだったため、意識の変容を読み取ることはなかなか難しかったが、異文化も意識していこうとする心は、少しだが育てられたように思う。

【8】自己評価

| | |
|-----------|--|
| 1. 苦勞した点 | 現地で仕入れた情報量が多すぎたため、それらを精選していくことに非常に苦勞した。子どもたちは現地の写真を見れば、とても喜ぶ。しかし、目的はそこではない。提示の仕方によっては、話がどんどん違う方向にそれていってしまう。一時間一時間の授業の中で、子どもたちに何を落としたいのかを考えながら、どの写真や映像を使うかや資料を出すタイミングなどを考えていくことが一番難しかった。 |
| 2. 改善点 | これから大切になってくるのは、本実践を継続して行って、たくさん子どもたちに国際理解教育を広めていくこと。しかし、本実践は私にしかできないような授業構成であることに問題を感じる。今後の国際理解教育を考えていくうえで、「誰もが実践できる授業」を子どもだけでなく、同僚の教職員に広めていく必要があると思う。どうすれば私たちの実践がより広まるか。答えはすぐにはないと思うが、長い時間をかけて真剣に考えていくことが、今回たくさんの方のことを学ばせてくださった人々への恩返しになるのではと感じている。 |
| 3. 成果が出た点 | 子どもたちはマレーシアについて、ほとんど知らなかった。しかし、自分もそれは同じ。帰国後の授業を通して、子どもたちの意見から、自分も改めてたくさんの方のことを学ぶことができた。教師海外研修の目的は、そこにもあるのではないかと強く感じた。担任の先生が実際に行った国の話は、子どもたちは真剣に聞く。だからこそ、伝えられるものがある。今回の教師海外研修は、子どもたちにとっての海外との「出会い」になり、これから先の人生に新しい視野を創ってあげられることができたと思う。 |
| 4. 備考 | 授業をしていて楽しいと感じることは非常に稀だが、マレーシアの授業は私自身、非常に楽しく実践していくことができた。これは、とても大きな財産になった。私をマレーシアに連れて行ってくださった JICA 職員の方々を始め、たくさんの方を教えてくださったアドバイザーの先生、現地で忙しい仕事の合間を縫って講義していただいた海外協力隊員の方々、そして同じ志をもつ仲間として絆を深めてきた教師海外研修への参加者に、心からお礼を伝えたい。ありがとうございました。 |

添付資料：カードパズル 本時 PowerPoint

参考資料：札幌市小学校用教科用図書 第6学年社会 新しい社会 東京書籍

2017年度 教師海外研修（北海道地域）【マレーシア】